家庭数配付

令和７年４月１１日
佐世保市立吉井南小学校
校長　中村　雅男

第２号

南小だより

入学式

春の１日、すべての生命が新１年生の小学校入学をお祝いしてくれているかのような１日、「令和７年度 入学式」を挙行することができました。ご来校いただき、温かい祝福をくださった保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。

校長式辞の中で、１年生に「３つの魔法の言葉」をプレゼントしました。「ありがとう」「ごめんね」「おはようございます」の３つの言葉です。人は人との関わりの中で生きていきます。もちろん「小さな社会」である学校でも、日々の学習はもちろんですが、人とどう関わっていくかを学びます。その中で、感謝の言葉「ありがとう」、相手に謝る言葉「ごめんなさい」、そしてコミュニケーションのスタートでもある言葉「おはようございます」を上手に使っていくことは、人との関わりの中でとても大切なことだと考えています。

たくさんの友だちとの関わりの中で、うまくいくこと、そうでないことを経験することでしょう。その中で「ありがとう」「ごめんなさい」「おはようございます」という言葉を通して、自分の考えを伝えたり、相手の思いに気づいたりしながら、１年生（もちろん上級生もです）が一歩ずつ、たしかな道を歩んでほしいと願っています。

雨の降る日は雨降る道を

７日（月）と８日（火）の朝、学校前の横断歩道で子どもたちの登校を見守っていた校長です。ふだんは車での登校が多いように感じていた子たちも歩いて登校している子が目立ちました。「転校生も来るし何かワクワクしています！」という言葉は新５年生が校長に話してくれた中身です。とてもすがすがしい気持ちになりました。まさに「進級マジック」。新しい友だち、先生、教室…。また心を新たに自分の足で歩いて登校し「がんばろう！」という気持ちがあふれんばかりの子どもたちです。

最近はお天気の悪い日には車での送迎が多くなっているのですが、「雨の降る日は雨降る道を」「風の吹く日は風吹く道を」お子様自身の足で歩かせていただければと存じます。それがお子様のためになると私は信じています。

上記の一節は、入学式の「校長式辞」の中で新入生の保護者の皆様に投げかけた内容の一部です。もちろん体調が悪かったり、家から学校までの道のりが遠かったりするなど、登下校の環境がお子様一人ひとり異なり、車での送迎が必要なことがあることも承知しています。

そんな中ではありますが、登下校中にいろんなことを考えたり感じたりしながら自分の足で歩くことはとても大切なことだと私は思っています。雨が降る日の歩き方は雨の降る日でしか学べません。風が強い日も然り…。今日１日の期待をふくらませたり、不安な気持ちを和らげたりしながら歩くことも、また、友だちとのいろんな会話を楽しむことも、たまにはケンカになったりすることも大切な経験だと考えます。

「我が子が雨に打たれるのはかわいそう…」という親心も大切です。しかしながら（私事で恐縮ですが…）、我が長女が４年生くらいの時のことです。雨の日の朝、タンスから取り出したくつ下をランドセルに詰め込んでいるのを見て「なんでくつ下入れてるの？」と尋ねると「どうせぬれるけん、替えのくつ下ば入れよるとたい！」と応えた長女のたくましさを感じ、親バカかもしれませんが心の中で嬉しさが込み上げてきた記憶がよみがえってきます。

「我が子のために車で送るのか」「我が子のために歩かせるのか」をご一考いただけると幸いです。